

町小だより

令和2年
4月7日
No. 649
御免町小学校

明けない夜はない

～耐えなければならぬときに選ぶ道～

校長 藤井 聡

春真っ盛り。芽吹きの時を迎え、草花は一斉に新しい芽を出し、花を咲かせています。子どもたちのいない学校で、子どもたちを思い、保護者の皆様を思いながら、新年度最初の学校だよりをつくっています。

日本中が、新型コロナウイルス感染拡大におびえ、正常な学校教育を行うことの困難さを痛感しています。進級や入学に胸を躍らせ、新しい出会いに期待を膨らませて登校してくるであろう子どもたちに、制約された始業式や在校生のいない入学式の実施を伝えなければならぬ現実。そして、通常通りの学校行事や教育活動ができなくなるであろうという不安と不満。出口の見えない真っ暗な道を歩かされているようでもありました。冷静さを失いかけていました。——そんな時、尊敬する方からの一言が胸に刺さりました。——「明けない夜はない」——穏やかな語り口でゆっくりと語られた短い言葉に、希望と光を見た思いでした。子どもたちの幸せを考え、学校をリードする立場でありながら、暗い気持ちになっていた自分を恥じました。もっと、元気を出さなければならぬと思い直し、冷静さを取り戻すことができました。

保護者の皆様もそう感じておられると思いますが、今年は、耐える年です。そして、子どもたちを守る年です。学校行事においても例年通りにできることは少ないと思っております。人生には、自分の望むこととは異なる方向に導かれていくことが多々あります。災害もコロナウイルスも人間の小さな力では太刀打ちできないところがあります。しかし、それでも人は前に進んできました。小さな力しかもたない人間が前に進んでこられたのは、ひとりの力の小ささを自覚し、みんなで力を合わせたからです。耐えなければならぬときに選ぶ道は、「力を合わせる」道です。学校は、全力で子どもたちを愛し、守ります。中止にせざるを得ない行事や活動も出てきます。それでも、少しでも子どもたちの心にその行事や活動が残るように、安全を確保しながら形を変えて実施する工夫をしていきます。ですから、どうか御理解ください。耐えなければならぬことが多い年だからこそ、どうか学校を支えてください。お願いします。

ここまで原稿を作成し、手をとめて、また、子どもたちに思いを馳せました。笑顔いっぱいの子どもの姿がどれほどみられるか。楽しみになってきました。どんな一年になるのか、先は見えませんが、皆様と力を合わせ、子どもたちを守り、育んでいきたいと思っています。